



幼兒の想像に付て

松本孝次郎

今爰に甲の犬に付て及乙の犬に付ての觀念を有て居る時に此二から材料を得て全く新に丙といふ犬の觀念を自分で作り出したならば此丙は想像に由てできた犬である。かういふ風に想像といふのは何かを工夫して作るといふはたらきをするのであつてせむとも材料がなければならぬ。俗に言ふ物知りといふのは此材料を多く有て居るのである。そうして工夫家發明者といふのは材料を有つに止まらず之をいろ／＼に工夫して別の物を作る力を

有て居るのである。「エヂプト」時代の彫刻物に獅子の身体に羽のはえたものがあるが之は「エヂプト」人の想像より出でたるををわらはして居る。又神の使として羽の生えた子供をよく畫くが之は子供と羽とを結合して作りたる想像の結果である又馬琴の小説の中に大人國小人國などがあるが之は通例の人を大きく又は小さく想像したのである教育上幼兒の想像といふことに付て考へるときは吾人の注意すべきことが澤山ある。

第一 幼兒によつて實際の作業よりは深く思に沈で想像をめぐらす方にばかり心を向くるものがある。かういふ兒はまじめな課業をきらふものである。かういふ兒に對しては想像に走り過ぎぬやうにといふことを注意せねばならぬ。

第二 想像力の強い幼兒があつたならば想像を

する爲に物を不精密に見はしないかといふ事に注意せねばならぬ。

第三 想像に富む幼児は實際行にあらはすよりは口にて言ひあらはし又は字で書きあらはす方がうまくなるものである。即ち實行よりも想像の方が勝ち過るものであるから此點に注意せねばならぬ。

第四 想像に富む人は物事を記憶するに當てそれを圖にし又は表にしておぼえかやうにせねばおぼえられぬといふことがある。

第五 幼児の想像を試すにはいろ／＼の方法がある。たとへば一の花を見せておいて次に手本も何もなしに其花を畫かせる。そうすると想像の巧な兒はよくできる。又「コップ」が机の上に載つて居るといふことを口で言てそれを畫にあらはせと

言ふもよい。而てやはり想像の巧な子はよくできる。又ある材料を興へてすきな物を作れと命ずるのもよろしい。又目的物を興へて材料にはかまはずにかくのもよろしい。たとへば積木を興へて何個つかつてもよいから家を作れといふとか、兎の話をごんなでもよいからして見よとかいふやうなのである。又目的と材料兩方とも定めてやつてもよろしい。以上の事は皆幼児の想像力をあらはすものですから其心して見るべきである。

第六 幼児によりて自分の觀念を作るに當りて作りかたが大層ちがふ。目で見たものを多くつかつて想像するものもあり又耳で聞いたものを多くつかふ、筋肉に觸れたものを多くつかふなど様々のちがひがある。之は觀念の置き方がちがふから想像の材料もちがふのである。即ち觀念の作り方

や想像の流義がちがふので大人にもあることである。幼児の想像の材料が偏して居ると分つたならば之を廣くするやうに導いてやらねばならぬ。

第七 人の道徳心は想像がよく發達する事を要する。凡て人は他人の不幸には同情起り易く幸福には同情の起り方が鈍い。そして幼児にも亦かゝる傾がある。だから他人の幸福に對しても快樂に對してもよく同情を起すやうに想像力を養ふ事は必要である。嫉妬心などを防ぐ爲に他人の幸を喜ぶやうに導かねばならぬ。

こゝに殘酷な兒があつて動物をひどくするものありとするに、多くは之を道徳心足らず、知識足らずと心配するに及ばぬ。之は想像力が足らぬのである。だからいろ／＼の工夫畫工夫話などをさせるとよろしい。そうするとなほるものである。想

像作用に付ては今から五十年前頃までは教育上そう重くないものとし記憶を重いとして居つた。それが五十年來想像を重んずるやうになつた。昔は想像を養へば空想を抱くやうになるとして賤んで居つたけれども今は教育家の考がちがつて來てできるだけ想像力を養ふがよいとなつて來た。已に道徳上工夫上想像を養ふ必要ありとしたならば其方法を考へる必要がある。

第八 これには幼時には遊嬉がよろしい。謎のやうな事を考へて解かせるとか、又は材料をもつて何か作るとか凡てあそびに由て養ふがよろしい。今一は幼児に向てする談話である。之はまだ見聞せぬ事物を其話に由て幼児に想像させるのであるからそれだけ想像を練る事になる。

第九 模倣と想像とは相距るごとくで實は近い

ものである。兩方相待つものである。まねをするものは發明想像が下手であるといふ人が多ければともそうではない。まねのうまい者は想像が強い之はまねをして想像の材料を多くとりこんでおくので想像には模倣といふ事が要件である。

第十 想像の足らぬのも害があるが強さに過ぐるのも害がある。凡て極端は人心に害のあるものである。想像の強過ぎる者は偽になることがある。之は心の中で想像して作つた新觀念があまり多く爲に眞の觀念と新觀念との區別がつかなくなつたのである。實物に當りて得た觀念であるか新に作つたのであるか迷ふのである。そこで新觀念をも實際あつたやうに思つて發表する。之が即ち偽となるものである。故に此類のうちは憎むべき性質のものではない。けれどもうそにちがひな

るのであるからよく注意してなるべく實物によりて得た事をよくおぼえさせ又一方では實物によらぬ話のごとき事をおぼえさせて其區別をよく知らしめつたり實物より得たものと心の中で新に得たものとの區別をよく知らしむるがよろしい。そうするとうそが少くなる。そうして一方では訓育に由りて誤りて偽れば不利益であることを知らしむるとよろしい。この想像に由りて偽る兒の處置法は現今困難な教育事業中の一である。

第十一 想像作用を満足さす法はどうであるかといふと幼兒が想像したいと望む時に想像をすることのできるやうにしてやると満足する。それには幼兒の考へる談話、遊嬉、繪畫などは何れも幼兒の想像に満足を與へるものである。